

沖縄医療生活協同組合・総代会参加報告

沖縄医療生活協同組合・第五十回通常総代会が六月二十一日(日)開催されました。総代会の詳細については、医療生協だよりにて掲載されると思いますので本かわら版では、中部協同病院の保健医療活動について、二階病棟 屋比久 亜弓師長が発言を行いましたので紹介します。

中部協同病院は、二〇一四年四月の診療報酬改定に伴い地域包括ケアシステムの確立に向けた医療活動を行ってきました。在宅においては在宅医療の強化、外来では糖尿病や高血圧等の慢性疾患患者の管理、及び地域や施設、在宅医療からの受け入れを行っています。

病棟では、急性期病院からの後方受け入れ、施設や在宅患者が急性増悪した際の入院受け入れ等、在宅復帰支援を地域包括ケア病床の役割として運用しています。

地域包括ケア病床(病床)とは、急性期治療後、病状が安定した患者さんに対してリハビリや在宅、または介護施設への復帰に向けた医療支援を行う病床です。対象病床は最長六十日以内の入院期間が原則となります。

二階病棟では、二〇一四年より地域包括ケア病床三六床から届出を開始し、二〇一五年六月より五九床の病床として届出を行いました。

そして、新たに三階病棟も一〇〇床の届出を行い、一般急性期四五床、地域包括ケア病床(病床)六九床の合計一一四床となり(地域包括ケア病床数では)県内で最も多い病院となりました。

また、看護師の業務負担軽減の為、看護補助者を増員しケアの充実に努めています。経営面でも、病床を増やしたことにより、日当円の増加で収益を伸ばすことができました。今後、入室の要望が多い個室を増やしていく事、看護補助者のケア技術の向上が課題です。

中部協同病院では、これまで同様、急性期病院や在宅・介護施設からの患者受け入れを行い、継続的なリハビリ治療で早期に在宅復帰や社会復帰に繋げる役割を担い、組合員や地域に寄り添う地域包括の構築をめざします。

中部協同病院・事務長
嘉数浩明



通し行進 頑張りました!




こんにちは。私は沖縄医療生協の職員として、この度、「2015年国民平和大行進」へ通し行進者として参加させて頂きました。

今年は梅雨明けが例年よりも早く、心配していた天気にも恵まれました。沖縄の暖かい日差しの中、名護市大浦をスタートし糸満市摩文仁を経て沖縄県庁前(県民広場)まで歩く7日間は平和そのものでしたが、行進中に設けて戴いた「屋嘉捕虜収容所跡」「宮森小学校ジェット機墜落事件」等の学習会で沖縄の先人達が苦しんだ過去を知りました。

また、核兵器廃絶や基地反対を訴えながら私達の財産である沖縄の土地を歩く一歩一歩は、これまで当たり前のように過ごしてきた平和について深く考えさせられました。今も脅かされ続けている「平和」について考え、訴えながら歩いた戦後70年目の夏は平和を願う多くの「思い」と出会い、平和についての考えを共感する事が出来ました。

平和を守るのは、私達の役目であり大きな使命でもあります。戦争を過去の事とせず、今ある平和を守るため、平和行進を経て感じ、経験した事を今を生きる全ての世代に伝えていきたいと思いました。

最後に、沿道より声援を送って頂いた皆様、その他行進を支えて下さった皆様、本当にありがとうございました。

中部協同病院 医事課 諸見里眞伍

＊すこやか会 再結成＊

5月16日(土)、病院地下講堂にて糖尿病患者会「すこやか会」再結成となる第1回総会が開催されました。患者さま・ご家族12名、職員12名、計24名の参加で行われました。「すこやか会」とは糖尿病を持つ患者さまで構成され、気持ちを共有できる仲間と交流して親睦を図り、上手に病気をコントロールすることを目的としています。当院には糖尿病療養指導士が10名(看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、検査技師)おり、患者会活動を全力でサポートしていきます。

総会では役員選出の他、年間活動計画が参加者全員の承認を得て決まりました。また与儀院長による「糖尿病の最新トピックス」と題した講演では糖尿病について基礎からわかりやすく説明していただき、CGM検査や新しい薬の話も聴くことができました。参加者から薬についての質問や糖尿病と認知症についての質問等々がありました。参加された皆様、ありがとうございました。第1回目の活動は沖縄県総合運動公園でウォーキングです。ご参加をお待ちしています！

糖尿病療養指導チーム 知名 百合子



新人研修を 終えて！

3階病棟 比嘉須麻子



私は、奨学生として学生のころから医療生協に加わり、今年度、無事に入職することができました。入職してからの一週間は、民医連の一員として多くの事をしり、学ぶことができました。私は北部出身であり、今問題となっている辺野古基地移設に関して、地元の問題だと感じていたこともありました。しかし、地元地域以外の方々が、熱心に反対運動に取り組んでいる事実は、正直驚いたと共に、改めて基地問題を見つめ直す機会となりました。今後の未来をしっかりと大人が判断し、子供たちによりよき未来を引き継ぐことができるよう行動していきたいと思えます。

2階病棟 石川 彩夏

四月に入職し新人研修を終え、いよいよ五月から現場での仕事がスタートしました。始めは、患者様やスタッフの顔と名前を覚えることから始まり、今は業務の流れを覚えることに必死で、時間との闘いです。

また、実際に患者様を受け持たせていただき、振り返ると必要なケアや観察がまだまだだなと感じます。これからは患者様が必要とすることや、ちょっとしたことにも気づけるよう、研究心、向上心を忘れず仕事に取り組んでいきたいと思えます。

検査室部署紹介

皆さんこんにちは。今回は検査室の業務についてご紹介させていただきます。

検査の種類には検体検査と生理検査(生体検査)があります。検体検査は(生化学検査、血液検査、尿検査、細菌検査、輸血検査、病理・細胞診検査)がありますが、院内検査で対応できない検査が多く沖縄協同病院検査室や外注検査へ委託して対応しています。生理検査には(心電図、各種エコー検査、肺機能、ABI検査)があり外来・入院・透析・健診からの検査をコンピュータにより管理・運営し情報を提供しています。糖尿病を調べる検査には血糖やHbA1c検査が主に検査されていますが、2013年より日内の血糖変動を数日間調べるCGM検査(皮下携帯式グルコースモニター検査)が新規導入され糖尿病の治療効果が期待されます。チーム医療に関わるスタッフとして、糖尿病療養指導士や超音波検査士認定資格などの取得により、質の良い検査を患者さまへ提供できる様、頑張っています。

検査室では、患者様へアンケート調査などをおこない、安心・安全な検査室を目指しています。また、接遇面も強化し、患者様や組合員から信頼されるよう心がけています。少数の部署ではありますが地域医療の現場を支えられる様、他部署と連携し頑張っていきます。

検査等について何か解らない事があれば検査室スタッフへ気軽にお声かけください。

中部協同病院 検査室長 松田弘二